

茨城県戦没者慰霊祭 (終戦記念祭)に参加して

茨城偕行会事務局長

佐々木克徳 陸自71

茨城偕行会は、令和元年8月15日に茨城県護国神社で実施された茨城県戦没者慰霊祭(終戦記念祭)に例年同様参加した。

「戦没者を追悼し、平和を祈念する日」として行われる本行事は、慰霊顕彰の実とともに会目的を認識する好機と捉え、広く会員に参加を案内した。当日、折悪しく台風10号の影響が予測され若干名の欠席が出たが、大高哲男会長(陸自66期)以下、15名の有志会員(賛助会員含む)が本行事に参加した。

行事開始に先立って護国神社に集合した有志により、昨年護国神社に奉納された特攻勇士之像周辺の清掃活動を実施した。

また、待機場所の参集殿における休息の合間に、特別企画として実施されていた「菓嶋プリズンから」(菓嶋に収監された14名の方の書展)を鑑賞した。

多くの一般参拝者が訪れる中、案内された拝殿は、英霊にこたえる会茨城県本部、護国神社総代会や崇敬奉賛会等の関係者を含め約90名の参列で満席

の状況であった。

11時30分に開始された慰霊祭の次第は、「修祓」「宮司一拝」「献饌(献茶)」「祝詞奏上」「浦安の舞奉奏」と続き、11時55分、全国戦没者追悼式に連動した行事に移行、拝殿内に流されたラジオ放送で安倍内閣総理大臣の式辞を拝聴、正午の時報に合わせて全員で黙祷を行った後に、天皇陛下のお言葉を拝聴した。その後、遺族であるシンガーソングライター深谷亮人氏の奉納曲「英霊の光が奉げられた」「玉串拝礼」は、それぞれの代表者に合わせて実施、「号鼓」「宮司一拝」をもって全て滞りなく終了した。

慰霊祭終了後に、佐藤昭典宮司より、令和初の終戦記念祭の意義と参列への御礼の挨拶が述べられた。参列者は、拝殿前で戦没英霊に献杯を行った後、参集殿に移動し厳かな中に清々しい気持ちで直会の昼食をいただいた。

じ後、同所において役員会を実施、今後の慰霊顕彰活動等への取り組みについて、積極的な意見交換と討議を行った。

前出以外の本行事への参加者は以下の通り。(敬称略)

根本忠(仙幼47期)、福井正躬(陸自60期)、小林真臣(陸自66期)、湯原弘(陸自68期)、大田保重(陸自71

期)、保延義仁(陸自79期)、坪沼浩(陸自01期)、木村正己(陸自08期)、荻沼藏次(准陸尉)、大川豊(陸事務官)、齋藤勝彦(陸事務官)、永井勇(賛助)、宇梶浩太(賛助)

